

EU 支部長: 松原 真実子 MATSUBARA Mamiko

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp

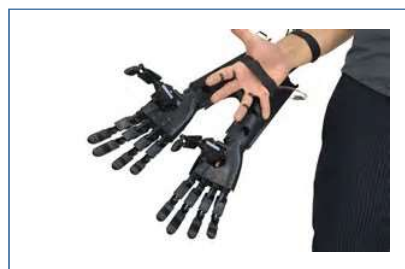
青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修了 現在 大阪府 太成学院大学 勤務 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

1 イタリアのスタートアップが開発
人間拡張に特化

2 EU支部だより

- ・拡張現実
- ・仮想現実
- ・人間と機械が融合する未来



イタリアのスタートアップが開発 片手で両手分の作業が可能な『Youbionic Double Hand』 Augmented Human(人間拡張)に特化

12月5日(火)ガジェット通信

AR(Augmented Reality、拡張現実)やVR(Virtual Reality、仮想現実)、AI(Artificial Intelligence、人工知能)などに世界中のスタートアップや投資家が群がっている昨今ですが、今後 Augmented Human(人間拡張、以下 AH)の分野にもその流れは波及していくと見られています。日本でも今年に入り、ソニーと東京大学が共同で人間拡張学を始動させたりしています。AH 分野に特化したイタリアのスタートアップ、Youbionic 社は、片手で両手分の作業が可能となる『Youbionic Double Hand』を発売しています。価格は完成品が1799ユーロ(約24万円)、3D プリント用のファイルが199ユーロ(約2万6500円)となっています。“片手で両手分の作業が可能”になると、「右手だけでビールを飲みながら唐揚げを食べる」、「キーボードのタイプスピードが爆速」、「目くそと鼻くそを同時にとる」、「片手でベンチプレス100キロ(ムリか)」、「格ゲーのコントローラーさばきが神レベルになる(マジ?)」といったことが実現するようになります。小難しい言葉で言うと、単純に作業量や労働力が2倍になるということですね。同社の創業者でデザイナーの Federico Ciccarese 氏に話を伺ったところ、同社は「人間と機械を接続することができるデバイスを開発」する企業で、「すでにある技術を活用して人類を進化させること」を目標に掲げています。『『Youbionic Double Hand』の開発には1年かかりました』とのこと。同氏によれば、「私達の脳は私達が考えている以上のことを処理できる可能性がある」と信じています」とのことで、同社は現在「人間と機械が融合する未来を見据えているので、その時のために知識を積み重ねている段階」だそうです。それにしても世間で言われているように、「近未来の人類は技術の進化によって体が退化していく」という説も一理あるなと思ってしまう。「楽しいから効率を考える」のは人類にとって諸刃の剣なのでしょうか。

・悪い子には炭

・サンタクロースのルーツ

EU 支部だより —ベファナー—

カトリックの総本山・イタリアでは、クリスマス(イタリア語ではナターレ Nata le といいます)は、ちょうど 日本人にとってのお盆やお正月のようなもの。もちろん、カレンダー上も12月25日は祝日で、翌日のセント・ステファノ(聖ステパン)の祝日と合わせて2連休となります。クリスマスをはさんだ数日間は家族はもちろん 普段顔を合わせない 親戚などが一同に会する機会です。日本の皆さんは、クリスマスにサンタクロースがソリに乗ってやって来て、子供達が寝ている間にプレゼントを置いていく。と誤ってでしょうが、イタリアではそうではないんです。イタリアなどカトリックの国では、サンタクロースが子供達にプレゼントを届けるのではなく、何とホウキに乗った醜い老婆(魔女)(Befana イタリア語でベファナー)がプレゼントを持ってくるのです。この醜い老婆(魔女)は1月5日の夜から6日の朝にかけて家にやって来て、子供達に贈り物を届けます。子供達はベッドに入る前に、暖炉のところ(なければ窓でも)に自分が持っている一番大きな靴下をぶらさげておくと、夜中に醜い老婆がこっそりやって来て、1年間いい子だった子にはキャンディーなどのお菓子やドライ・フルーツや小さなプレゼント、悪い子だった子には靴下に炭をごろごろ入れていくんです。その炭も今は炭に似せたキャンディーが売られていますけど！ベファナーは、もしかするとサンタクロースのルーツだったのでしょうか。楽しいクリスマスそしてお正月をお過ごしください。ブオナターレ エ ブオナアンノ(松原)

